

ちば里山新聞

(第38号)

編集発行 NPO 法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148
 電話 0438-62-8895
 題 字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

ちば里山新聞は千葉県からの委託事業を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています

東葛地区地域懇談会開催

11 月 28 日

今年度の地域懇談会が、11 月 28 日（木）、船橋北部公民館で開催されました。これは、里山活動団体相互の交流を深めるとともにその地域の行政機関や企業・団体等との連携を通じて地域の里山活動の一層の活性化を図るため、千葉県から業務委託を受けてちば里山センターが主催するもの。昨年の「市原市」に続き、今回は「東葛地区」が対象となり、船橋、市川、松戸、白井、印西、成田、四街道、八千代の 8 市から、15 団体・17 名の代表が参加し、講師や里山センタースタッフを交え、活発な意見交換が行われました。



会はちば里山センター鈴木副理事長の司会で始まりました。まず、北部林業事務所印旛支所の森浩也主任 上席普及指導員による「東葛地域の里山活動の今後の方向性」と題する基調講演が行われ、里山の現状や活発に活動する里山団体の状況などが紹介されました。続いて、ちば里山センター金親博榮理事長が、ちば里山センターの実情と今後について報告した後、参加者の自己



紹介と意見交換が行われました。意見交換では、市街地に近い里地里山が抱える産廃やゴミ問題、会員の年齢構成の問題などが提起され、行政や里山センターに対する要望や厳しい意見も出されました。また、一定の役割は終えたとして次への展開を模索する団体の報告などもあり、現状における課題の多様さを窺わせるものとなりました。

今回の会合を起点にし、地域やテーマを絞るなどにより、さらに具体的な展開を図ってゆくこととして会は終了しました。

写真④ = 「こんな自然を後世に残したい」 講演する森 上席指導員

写真⑤ = 「里山活動を盛り上げよう」 あいさつする金親理事長

「第 3 次千葉県里山基本計画案」示さる

県 HP でパブリックコメント

「第 3 次千葉県里山基本計画案」が千葉県の HP に示されました。12 月 27 日までの意見等の募集（パブリックコメント期間）を経て成案となることになっています。この基本計画は、「千葉県里山の保全・整備及び活用の促進に関する条例」（里山条例）に基づくもので、定期的に見直しが行われるものです。12 月 19 日、千葉県による説明会が、ちば里山センター理事会の席で行われ、質疑応答が行われました。

詳細は県 HP を参照下さい <http://www.pref.chiba.lg.jp/kensei/kenminsanka/ikenboshuu/iken/index.html>

エコプロダクツ 2013

「森からはじまるエコライフ展 2013」

～森と木を活かす“グリーン・エコノミー”の提案～への出展

「エコプロダクツ 2013」が、平成 25 年 12 月 12 日～14 日の 3 日間、東京ビッグサイトを会場にして開催されました。これは、日本最大級の環境展で、主催は（一社）産業環境管理協会、日本経済新聞社。ちば里山センターは公益社団法人国土緑化推進機構・美しい森林づくり全国推進会主催、日本経済新聞社企画協力の「森からはじまるエコライフ展 2013」に出展しました。ちば里山センターは、千葉の木の名称や読み方などをあてるクイズを中心に、千葉県内の里山活動団体の紹介や木や竹細工の展示を行いました。主催者発表によると入場者総数はおよそ 16 万人でした。



「ちば里山センターブース」

里山巡回相談（その 5）

ヤブも生かした森の整備

～豊富どんぐりの森～



森林研究所 福島成樹



2013 年 5 月 10 日に、第 5 回の里山巡回相談を行いました。今回伺ったのは、船橋市にある豊富どんぐりの森です。（写真）

豊富どんぐりの森に初めて訪れたのは、もう 10 年以上前の 2002 年の 8 月になります。当時は、会が発足して 1 年が経過し、捨てられていたゴミの片づけが大体終わり、これからどのような森づくりを進めていくか検討を始めた時期だったと思います。会からは、「地球環境に役立つ森とは、具体的にどのような森なのか」という質問があり、生物多様性からみた広葉樹二次林の重要性と、多様な森づくりの話をしました。当時は、会員の方々の意見がいろいろで、よくある森林整備派（体育会系）と自然観察派（文化会系）とで、刈るか残すかの調整が大変だという話がありました。どちらかという自然観察派の団体というイメージでしたが、今回伺った時には広葉樹の高木の伐採作業が予定されており、森林整備もかなりレベルが上がっていることにびっくりしました。豊富どんぐりの森は面積が約 5 ha ありますが、刈り払いを行い見通しを良くしている部分と、手を付けずにヤブを残している部分があり、植物や動物の多様性の面からは望ましい管理がされていると感じました。

森では、千葉県ではまだ被害が確認されていませんが、全国的に問題になっているカシノナガキクイムシによるナラ枯れのこと、スギやヒノキに被害を与えるスギカミキリのこと、コナラの苗木の作り方、コナラの萌芽更新は 40 年生を越えた太いコナラでは難しいこと、竹の管理方法などについてお話ししました。

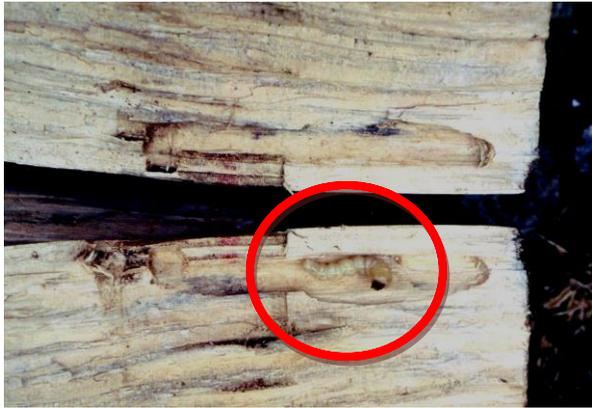
広葉樹の高木の伐採にも取り組まれているということで、今後も作業の安全に十分注意して、事故のないように活動を続けていただきたいと思います。最後になりますが、キビタキがさえずる春の森で、とても気持ちの良い時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

中学生から礼状届く

県立千葉中学校からの要請を受け「ことばの授業」でインタビューを受けた当センター金親理事長あてに、生徒たちから何通かの礼状が届きました。その中の 1 通を紹介します。

金親博榮さんへ～ 1 年 1 組 鈴木凌太より

今回、インタビューを受けていただき、ありがとうございました。正直、「里山」というものにあまり親しみがありませんでしたが、このような保全ボランティアがあるとことを知り、また、様々なことを教えていただけたおかげで、少し親しみがわいた気がします。また、最後に頂いたメッセージ「自然を大切にすると、自然が私たちを守ってくれる」は、胸に刻み込んで、将来大人になっても自然を大切にすることを忘れないようにしようと思います。



樹皮をはがしてみると、細長い穴が開いています。
木を割ってみると幼虫が出てきました。



松林を整備していると今年枯れたマツから木屑
が出ています。

整備作業で見つけたカミキリムシ幼虫

樹木医 石谷 栄次

これがマツを枯らすマツノザイセンチュウ（病原体）をまき散らす運び屋マツノマダラカミキリの幼虫です。マツノマダラカミキリ（以下「マダラカミキリ」と言います）とマツノザイセンチュウ（以下「材線虫」と言います）は巧妙な連携プレーが成立しており、マダラカミキリが成虫になる時、さなぎのまわりに材線虫が集まってきます。そしてマダラカミキリの気門に入り込みます。マダラカミキリは材線虫を乗せた状態で羽化し、生きたマツの樹皮をかじって材線虫をばらまきます。材線虫は爆発的に増殖し、マツを枯れします。今度は、枯れたマツめがけてマダラカミキリが産卵にやってきます。枯れた年のマツしか利用しません。この枯れマツを林内に残すとマダラカミキリが羽化して10倍のマツが枯れます。激害林では30%以上のマツが枯れ、数年で松林が全滅していきます。



里山とわたし

若本重男（「里山を歩く会」代表）

久保田里山讃歌

里山の詩

一里山を見つけ里山に魅せられて十数年—
久保田の地に“かまくら街道”と言いつたられた古道あり—
誰も通らない、通れないまま数十年。森のフロンティアは嬉しい。住人で下草を刈ると、自分ひとりの汗で十倍の成果を見ることができる。スリルを味わう作業もある。散策の道に時たまあらわれるスズメバチ、悪いが移ってもらおう。

歴史遺産

私たちの里山には先人の残した石仏群がある。西国三十三霊場の仏たち—また、ラジオ体操第二の創始者・遠山氏も眠る。

自然遺産

ここには遠くを眺める場所がある。青く輝く東京湾の海面、臨海コンビナート、東京スカイツリーそして富士山。

豊かな四季

春には梅の香りが快い。初夏の新緑、秋の紅葉、ドングリの実、栗や柿、石焼き芋など—楽しみがいっぱい。子供たちが喜ぶ木登りの木—自慢のスポットだ。

里山を歩く会のコンセプト

里山は人を元気にし、人は里山に磨きをかける。無理しない我慢しない。できるときにやる。長く里山とともに生きる知恵—よみがえらせた江戸時代から続く士の道いつまでも伝えられたらと願う。



里山イベント情報

(平成 26 年 1 月～3 月)

月 日	内 容	主 催 団 体	連 絡 先
1 月 5 日 (日) 10:00～12:00	下大和田谷津田観察会とゴミ拾い 冬鳥を求め、普段は入れない谷津田下流部まで 巡ります。 参加費：100 円/人 (小学生は無料)	ちば谷津田フォーラム 共催：ちば環境情報センター	☎043-223-7804
1 月 11、13、22、 25 2 月 5、8、11、16、 19、24、30	昔ながらの味噌づくり (地元大豆とコシヒカリ米麴を使った) 会場：「わたしの田舎」谷当工房 参加費：2,100 円/人 定員各 20 名 予約は 7 日前まで。 午前・午後の日があります。予約時に要確認	「わたしの田舎」谷当工房	☎043-239-0645
1 月 11 日 (土) 10:00～14:00	新年の谷津田で火起こしをして、どんど焼 きをします 会場：緑区下大和田 谷津田 参加費：300 円	NPO ちば環境情報センター 共催：ちば・谷津田フォーラム	☎043-223-7807 (吉田)
1 月 19 日 (日) 14:00～16:00	里山入門講座「自然・環境そして里山」 “里山の原点を知ろう・学ぼう” 会場：木更津工業高等専門学校 参加費：無料 申し込み不要	共催：きさらづ里山会 共催：木更津工業高等専門学校 環境都市工学科	☎ 080-3324 - 8749 (前田)
2 月 13 日 (木) 13:30～16:00	第 51 回試験研究成果発表会 (林業) 会場：さんぶの森文化ホール 申し込み不要、先着 220 名様	千葉県 農林水産技術推進会議農林部 会	☎0475-88-0505 千葉県農林水総合研 究センター森林研究 所
2 月 13 日 (木) 13:30～16:00	トラクター運転技術安全講習会の参加者 募集 会場：平塚の里山ベースキャンプ 参加費：100 円/人 (保険代など)	しろい環境塾	☎047-404-3298 月・水・土の 10:00～15:00
3 月 29 (土) 9:30～14:30 予備：3 月 30 日	「自然観察と里山体験」 音信山 (おとずれやま) とその周辺の散策を通 じて、地域の歴史や風土を探訪。 参加費：500 円 (資料代等) 集合：高滝ダム記念館	おとずれ山の会	☎0436-36-3773 (高橋)

～里山トピックス～ 台湾の里山事情

先ごろ、台湾の国立公園管理者による視察の一行が来日し、当ちば里山センターにも立ち寄って、センター役員と懇談や近くの里山の視察をして行かれました(第 37 号で既報)。当センター風間理事が台湾を訪ねる機会があり、来日した皆さんと交流したとのことですので、台湾の里山事情を含めその様子を話してもらいました。

風間理事の話

今夏、台湾から来日した皆さんを千葉の里山に案内したことから、今度は台湾から“里山シンポジウム”へのお誘いがあり行ってまいりました。「いちばら里山クラブ」を軸に里山の現状や課題について話しました。千葉県の里山は管理・運営の評価が高く、“日本に学ぶ”という熱い思いを強く感じました。今後も継続的に交流を続けていきたいと思うところです。

※ 詳細についてはちばセンターホームページをご覧ください。※参加お申込み・問い合わせ先

➤ 特定非営利活動法人 ちば里山センター

➤ 袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148 TEL0438-62-8895 FAX0438-62-8896

➤ <http://www.chiba-satoyama.net/> e-mail info@chiba-satoyama.net

